

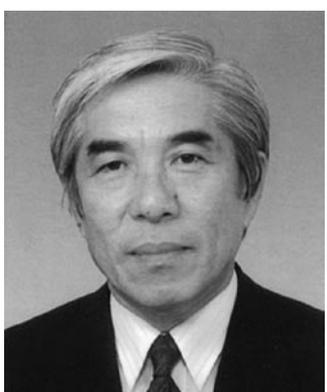
名古屋芸術大学

後援会報

第42号 2007年3月26日発行

卒業生に贈る言葉

後援会長 水谷 友彦



ご卒業おめでとうございます。
門出の春、大学生活を終えられ、新たな進路へ船出される皆さんの前途は洋々と拡がり、そこには耀く未来があります。各々がめざす道を、たゆまぬ努力と研鑽により、強く逞

しく歩みながら、自己を確立して行ってほしいと願っています。

皆さんは、20世紀後半の高度成長の時代に生まれ、豊かさの中で自由を謳歌し、のびのびと成長されてきました。ご家族や周囲の愛情につつまれて優れた感性を磨き、そして自らの強い意志と希望で芸術の道を志して名古屋芸術大学に進まれたことと思います。

戦後の半世紀、日本は豊かさを求めてものづくりに邁進し、経済大国として世界の頂点に昇りつめました。しかし今、社会は変革の時代に入り、大きく変わろうとしています。豊かさと引き換えに失ったものは大きく、地球規模の自然破壊等だけでなく身近な社会問題にもつながっています。21世紀は「こころの時代」だと謂われます。これからの時代を生きる皆さんは、芸術・文化の道を通して、人々に“安らぎ”と“こころの豊かさ”を与える担い手になってください。

陽春がふりそそぎ、温かく皆さんを包んでいます。名古屋芸大で学び、得られた経験を糧に、これからの人生を力強く歩んでください。そして、どんな困難も乗り越え、大きく翔たいてくれると信じています。皆さんの今後の活躍とご多幸を心からお祈りします。



学長 榊 達雄



卒業おめでとうございます。
皆さんは、大学卒業という人生の節目を迎え、大学院に進む人、芸術家、作家としての道を歩もうとする人、あるいは企業等に就職し、大学で学んだことを生かそうとする人もそ

れぞれこれから始まる新しい生活に対し、はつらつとした気持ちで臨んでいるものと思います。皆さんの前途は洋々であることを祈っていますが、他方で、人類は、地球温暖化等の環境問題、人口問題、資源・エネルギー問題、南北問題、エイズ流行問題等を、その上にわが国は、格差問題、少子化問題等々を抱えています。皆さんは、こうした問題にもしっかりと目を向けるよう期待します。またわが国では、昨年教育基本法が改定され、現在は憲法「改正」問題が政治上の争点になっており、正に岐路に差し掛かっているといえます。皆さんはこのような問題からも、目をそらすことはできません。そして、皆さんは、人格の完成は生涯を通じて追求すべきものであることを念頭に置き、生涯学び続ける姿勢をもち、自分の人生を切り開いて行かれるよう期待します。

名古屋芸術大学は、音楽・美術・デザインの3学部を擁する芸術系の総合大学として、本学および各地での展覧会や演奏会、地元自治体と連携した生涯学習講座、国の内外の著名な作家・音楽家等を招いた公開講座、外国の大学との国際交流等を行い、地域に根ざすとともに、社会に、世界に開かれた大学たらんと努めています。本年4月からは、幼稚園教員、保育士、小学校教員を養成する新学部、人間発達学部を加えて、総合芸術大学としての内容をより豊かにしていく所存です。皆さんは、卒業後も母校がどのように発展していくかに関心をもち、見守っていただければ幸いです。

名古屋芸術大学近況報告 [音楽学部]

[音楽文化創造学科]

音楽文化創造学科では、それぞれのコースが独自のスキルの教育に力を入れる一方、コースを越えた活動を行い、新たな文化を創造していく学生の育成を目指しております。以下に主な活動状況をお知らせします。

◎9月に、サウンドメディア、音楽療法、音楽総合選択コースの1、2年生の合同合宿を、山梨県にて行いました。研修の合間に八ヶ岳などを観光し、学生たち、教員との交流を深める良い機会となりました。

◎12月21日にしらかわホールにて4回目となる音楽企画「ルネッサンス21」を、セントラル愛知交響楽団とのコラボレーションにより開催しました。従来のクラシックコンサートとは違う新しい形態のものを創造していこうという狙いの元、企画運営を音楽ビジネス・ステージマネージメント、観客参加の演出を音楽療法選択、そしてオリジナル曲作曲をサウンドメディアの学生たちが担当しました。当日は音楽に合わせた映像演出や、観客参加のカラー診断なども行われ、学生たちのイベントに対する意気込みを感じるものとなりました。

◎去年に引き続き、学生による映像とサウンドのアー트의結合を目指した実験的イベント「カレイドスコープ」を2007年2月17日に名古屋栄のカフェ「R Base Cafe」で行いました。今年はイベント名を「色彩と空」と題し、サウンドメディア、音楽療法、そしてデザイン学部の学生たちが一丸となって新しい作品の創造、空間の演出などに取り組みました。当日は、デザイン学部の学生が撮影した映像に同期した音楽をサウンドメディアの学生が作曲し、生演奏と合わせた作品や、音楽療法の学生がデザイン学部の学生のアニメーションに合わせて日常品や民族楽器の音を演奏し、それにサウンドメディアの学生がその場でエフェクトをかけていくパフォーマンスなどが披露され、大変興味深い、これからの発展性を感じさせるイベントとなりました。来年度からも継続して取り組みたいと考えています。

◎音楽教育選択コースでは、昨年は石川県の小・中学校を訪れ、学生たちによる生の演奏会を開催しました。ハンドベルや雅楽の演奏は好評を博し、生徒たちは初めて目にする楽器に大変興味を示していました。今年は、さらに大正琴を取り入れるなど、新し

いことに挑戦してゆく予定です。このように本コースでは「社会に密着した音楽活動、音楽教育」を展開してゆきたいと考えています。

◎音楽ビジネス・ステージマネージメント選択コースでは、今年度からは、学内から学外へ発信！をモットーに、これまでの本学主催演奏会の企画運営の体験を基盤に学外との協同企画を中心に実践教育を実施して参りました。そして、4年生実習「新人発掘」（新人養成からデビュー&CD発売まで）を《まとめ》と致しました。

◎音楽療法選択コースでは、近隣の高齢者施設や子どもの施設で音楽療法実習を継続的に行っています。12月には、地元高齢者施設にてクリスマスコンサートを行いました。当日のプログラムは、学生たち自らが参加される方々にあった曲目などを構成し、演奏も行いました。昔懐かしい紙芝居に効果音やBGMなどをつけたものを披露する試みもあり、対象者の方々との交流を持つ良い機会となりました。

◎サウンド・メディア選択コースでは、2007年3月17日～8月19日まで名古屋ポストン美術館で行われる「アメリカ絵画 子どもの世界」展の館内で再生される作品紹介ビデオの音楽制作を担当しました。また、サウンド・メディア選択コース音楽制作研究所では、中部フィルハーモニー交響楽団飛騨高山ヴィルトーゾ・オーケストラのライブ録音を教員と学生とともに行いました。

◎ミュージカル選択コースでは、卒業公演を3月3日・4日、の2日間、名古屋青少年文化センター アートピア・ホールで実施しました。本年の演目は本学のオリジナルミュージカル「アップルパイは殺しのサイン!？」です。約1000人の観客が学生達の華やかなパフォーマンスに魅了されていました。また、本年5月に韓国で開催される国際ミュージカルフェスティバルに招聘されることが決まっています。

◎ジャズ・ポップス選択コースでは、9号館に設立したセッションルームで、学生たちが日々練習に励んでいます。定期的に2号館ロビーで定期的に行われるライブや、公開講座での客員教授とのジャズセッションなどで練習の成果を発揮しています。

音楽文化創造学科長 田中範康

〔演奏学科〕

声乐選択コース

11月にはイタリア・ポローニャ音楽院からベルノッキ教授をお招きし、ベルカント唱法の講習を行った。今年から客員教授としてお招きしている鮫島有美子氏のレッスンも、大変好評のうちに継続しています。10月には本学大学院修了、現在契約助手の中野嘉章君が大阪国際コンクールに入賞。目下は、3月16日(名古屋市民会館大ホール)18日(豊田市文化会館大ホール)での歌劇「カルメン」に向けて、練習中。今回はイタリア・フェラーラ音楽院との姉妹校提携記念ということで、アレッサンドロ(ホセ)、マルコ(エスカミーリョ)という2人の学生を音楽院から招聘しての画期的な公演です。

ピアノ選択コース

夏には合歓の郷で初めての試みとして、ヤマハグレード5級取得の為に3・4年生による研修合宿を行いました。ヤマハから作曲の小林先生を招いて充実した研修になりました。

また、姉妹校提携をすることになったポーランドのヴィドゴシチ音楽院からは、ボヴウオッカ、シドラ両教授を迎え、11月にセミナーが行われました。11月の「ピアノの夕べ」、2月の「春のコンサート」どちらも、今までになく大盛況の演奏会となりました。

本学大学院修了、現在契約助手の牧村沙保さんが、クラシック音楽コンクール、ローゼンストック

国際ピアノコンクール共に、最上位入賞を果たし、本学1年在学中の谷田部響君もKOBЕ国際学生音楽コンクールのピアノ部門で優秀賞を受賞しました。

弦管打・バンドディレクター選択コース

9月のウィンドオーケストラ定期演奏会、10月のオーケストラ定期演奏会、12月の屋内楽の夕べ、2月のアンサンブルフィラルモニク ア・ヴァン定期演奏会と、充実した演奏会を行いました。オーケストラの定期演奏会では、世界中に沢山の生徒を持つアレニコフ教授がヴァイオリンソロを務め、ウインドオーケストラ、ア・ヴァンの定期演奏会では本学客員教授ヤン・ヴァン＝デル＝ロースト氏が熱演を聞かせました。今年2007年7月には、そのヴァン＝デル＝ロースト教授率いるウインドオーケストラが日本代表として、アイルランドとオーストリアで演奏会を行う予定です。

電子楽器選択コース

本学講師鷹野雅史が、二胡奏者シューミンとのジョイントリサイタルを本学音楽講堂で行い、聴衆を魅了しました。12月には電子楽器コンサート「earth echo」が開催され、いろいろな楽器とのコラボレーションを含む多彩なプログラムで、電子楽器選択コースの充実ぶりを感じさせました。来年度は、ローランド社製の機種も導入が決まり、一層バリエーションに富んだ授業が展開されることでしょう。

演奏学科 教授 古谷誠一

「人間発達学部」の認可と近況報告

昨年6月末認可申請をした本学の四番目の学部である「人間発達学部(こども発達学科 定員140名、3年次編入10名)」は、11月30日、文部科学大臣から認可されました。同学部は小学校教諭・幼稚園教諭及び保育士など保育者(教育者)の養成を目的としていますので、免許・資格に関係する教員と教育課程などの審査にパスしないと学部・学科として機能しませんが、保育士資格については厚生労働省から認可(内示)が11月末にあり、また小学校教諭一種免許・幼稚園教諭一種免許の教員免許課程認定申請も本年1月に審査が行われ指摘事項はありませんでしたので(認可は3月末とのことですが)、こちらのほうも認定はほぼ確実との状況で関係者一同ほっとして、4

月の開設に向けての諸準備に精を出しています。

学部の認可とともに開始された学生募集も、学力による選抜試験はまだ始めたばかりですが、先に行った2回の推薦入学試験により、受験生の減少の昨今にもかかわらず定員確保の見通しもたち幸先のよいスタートとなりそうです。

今後の課題は、私たち教職員が一丸となって人としての「道理を身に付け」、保育者(教育者)として「教育力があり」、かつ「オンリーワンのスキルを持つ(これだけは自信が持てる)」卒業生を送り出すことに邁進する所存ですので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

人間発達学部長(予定者) 太田悦生

名古屋芸術大学近況報告 [美術学部・デザイン学部]

「発表」の場に立ち会うこと ～ 2006年度の展覧会、ワークショップ、講演会から～

芸術大学に学ぶということにおいて、一番の「ハレ」の場とはいったいなんでしょうか。きっと、それは「卒業制作展」を筆頭に、修練した技術と創作へのエネルギーを込めた作品を「展覧会」という場で披露することなのかもしれません。今年も、卒展会場では卒業生本人や在学生、そして御父兄のみなさんが、大学生活の“証し”に立ち会っていただくことになり、そこでは晴れやかな笑顔や、あるいは安堵と不安の交差した神妙な面持ちにも出会えたことでしょう。

けれども、この「ハレ」の場だけがゴールでも全てでもありません。学生たちは「発表」するために「制作」したわけではないのです。「発表」という行為は、一見すると「制作」と地続きのようですが、実はちがうのです。学生たちがやがて作家活動をおこなう時に、社会人として様々なプロジェクトに関わったり、組織の一員としての役割りを担うとき、彼らが「制作者」の視点を理解しながらも、それとは異なる立ち位置で、いかにして「発表」を成り立たせるのかという観点を、自覚し獲得してほしいのです。

少し話が理屈っぽくなりました。筆者は、美術文化学科という「非実技系」学科の教員として、展覧会の成り立ちや企画運営に関する授業を担当したり、大学内のギャラリー（アート&デザインセンター）の運営に関わっています。そんな立場からの、「発表」に立ち会うことへの提言です。

さて、「制作」を中心とした授業の他に芸術大学ならではの試みとして、本学（西キャンパス）では、様々な展覧会やワークショップ、そして講演会などが展開されています。ここでは、学生が作品を発表するためだけでなく、むしろより良い作品を展覧すること、鑑賞すること、そしてなるべく学生が受け身にならないように、授業とも連動させた実践教育の場となるような工夫がされています。

ここでは、2006年度に実施された企画のいくつかをご報告いたしましょう。

■展覧会／ワークショップ／講演会

学内での展覧会は、おもにB棟のアート&デザインセンターが舞台となります。2006年度には3本の企画展が実施され、それぞれ企画立案した教員が中心となって準備が進められ、展示設営など様々な場面で学生たちを牽引しました。「残骸の小宇宙～求道としてのプラモデル～」と謳われた『水野シゲユキ展』（6/16～6/27）は、プラモデルの改造ジオラマという珍しいジャンルの紹介となりました。ここでは、もともと現代美術志向だった作者が、プロのモデラーとして評価を得るまでの経緯や、驚異的とも言える描写力の魅力など、作品のみならず作家の生き方としても関心が寄せられたのでした。

つづいて『ジョージ・ハーディー作品展』（10/5～10/18）は、デザイン学部の客員教授として招聘された英国のグラフィックデザイナーの登場でした。当然のことですが、展覧会とはただ作品が並んでいるだけではありません。「Manual（マニュアル）」というタイトルのように、企画に込



▲水野シゲユキ展 写真：林 裕巳

められたメッセージが展示の仕方にもあらわれま

す。シンプルな展示のなかに、「手の復権」という意志が伝わりました。

さらに『Pass 一空間の中のリズム：台北のメディア・アートから』（10/27～11/8）は、活況を呈するアジア美術の中での、メディア・アートの位置や動向を知る好機会となりました。

こうした展覧会の醍醐味は、学生がアーティストと直接にコミュニケーションできる貴重な場となることです。美術館での展覧会とは違い、あくまでも「教育機関」としての機能を前提とすることに意味があるのです。ここでは学生たちの「制作」に関する興味が喚起されるようにと、展覧会を中核として教育プログラムがより凝縮し立体的な内容になるようにとの配慮がされます。たとえば、公開制作やワークショップなど、制作の現場を学生たちに示し、人的な交流の機会をつくること。そして、講演会や対談、アーティストトークなどを通じて、生の创作者の言葉と態度を伝えていくことです。

学生たちは、それらの場面で鑑賞者や参加者の場合もあれば、その場を成り立たせるための「裏方」にもなります。むしろ、より身近に企画に関わるスタッフワークこそが、現場に立ち会うことの大切さを実感できるかもしれません。



▲リノ・タリアピエトラ氏による特別ワークショップ



▲鈴木藏氏の講演会「陶芸と私」



▲ジョージ・ハーディー氏によるワークショップ

■学外への発信

ところでアート&デザインセンターでの企画展ばかりでなく、本学の2006年は学外へ発信する多くの企画事業を推進しました。このことは、単なる大学広報のためではなく、芸術大学として、ひろく社会に開いた情報と知の発信を志すという理念によるものです。

ヴェネツィアングラスの巨匠であるリノ・タリアピエトラ：特別ワークショップ（11/17～18）は、学外の専門家など400名をこえる参加者が集い、ガラス工房ならではの貴重なデモンストレーションの場となりました。

また、学外の会場では、デザイン学部の特別客員教授であるジェームズ・ダイソン：デザイントーク（10/25、名古屋市青少年文化センターアートピアホール）も注目を集めました。もちろん海外の作家ばかりではありません。公開講座として、人間国宝・鈴木藏氏の講演会「陶芸と私」（12/7）も、学生たちばかりでなく、学外の聴衆にとってもきわめて貴重な機会でした。このほかにも多くの展覧会やワークショップ、講演会が、授業の一貫として、あるいは自主企画として、学外に発信されました。これらの成果は、やがて本学を巣立っていく学生たちに託されるものであり、即座に目に見えるものではないでしょう。あの時、たしかに「立ち会った」という経験は、時を経て、きっと再検証される機会が訪れることでしょう。

最後に私見を。こうして様々な事象を、教職員の眼で語るだけでなく、学生の言葉や視点、考察をお伝えする機会や媒体（メディア）が、何かできないものかと思案する昨今です。

美術学部美術文化学科
助教授 高橋綾子

皆さん、受賞おめでとうございます！

2006年度の本学在学学生（学部学生及び大学院生）の展覧会や各種コンクールにおける受賞結果をお知らせします。本人又は担当の教員を通じて報告のあったものだけをまとめています。下記以外にも受賞された方がおられると思いますので、芸術文化交流室まで情報をお寄せください。

音楽学部

コンクール名	受賞名	受賞者氏名・所属	主催団体	開催日
音楽大学トランペット専攻生によるアンサンブルコンサート（コンクール形式）	6位	演奏学科トランペット専攻 4年：小澤由起子、 3年：中向井翔一、安田 舞、 2年：福岡希美、大橋沙知子、 松原正浩 1年：磯村美由紀、館 歩美	—	2006年 7月
第1回T I A A全日本作曲家コンクール	審査員特別賞	大学院音楽研究科音楽学専攻 2年：原田裕貴	東京国際芸術協会	譜面・テープ審査
第7回大阪国際音楽コンクール	2台ピアノ部門第2位	演奏学科ピアノコース 3年：小林亜也子、 4年：山内真衣	大阪国際音楽コンクール 実行委員会	グランドファイナル 2006年 10月
第17回日本木管コンクール	フルート部門第2位	器楽科弦管打コース 4年：上野博昭	兵庫県加東市	2006年 10月
第12回K O B E 国際学生音楽コンクール	ピアノB部門優秀賞& 神戸市民文化振興財団賞	演奏学科ピアノコース 1年：矢田部 響	K O B E 国際学生音楽コ ンクール実行委員会	2007年 1月



▲第7回大阪国際音楽コンクールの2台ピアノ部門で第2位を受賞した小林亜也子さん（右）と山内真衣さん（左）



▲トランペットアンサンブルコンサート入賞者の皆さん

美術学部・デザイン学部

コンクール名	受賞名	受賞者所属：氏名	主催団体・会社名	開催日 (応募期間)
第38回日展	入選	大学院美術研究科1年： 今井かおり、長谷川基子、井上あゆみ、 落合晶代、能島絵美、福本百恵 大学院美術研究科2年：藤浪英智、 絵画科日本画コース4年：江端佳世	(社)日展	2006年 11月
第36回日彫展	入選	大学院美術研究科1年：宮田耕作 大学院美術研究科2年：長坂伊紗 科目履修生：伊藤貞子	(社)日本彫刻会	2006年 4月
第36回日彫東海展	東海テレビ賞	大学院美術研究科2年：長坂伊紗	(社)日本彫刻会	2006年 5月
中部二紀展	奨励賞	大学院美術研究科2年：田中 桂	二紀会中部支部	2006年 4月
夢広場はるひ絵画ビエンナーレ	奨励賞	大学院美術研究科2年：田中 桂	春日町・春日町教育委員会・ 絵画展春日実行委員会	2007年 3月～5月
中部春陽2006年展	新人賞	大学院美術研究科1年：高原絵里	中部春陽年展	2006年 11月～12月
2006日本ジュエリーアート展	入選(学生部門)	メタル&ジュエリーデザイン 2年：松井いづ美	(社)日本ジュウリー デザイナー協会	2006年 5月～9月
英国メダル制作 コンペティション	Best guest Prize	メタル&ジュエリーデザイン 4年：鈴木恵理	英国アートメダル協会	2006年 4月
第2回 コッカプリントテキスタイル賞	審査員特別賞	テキスタイルデザイン4年：工藤ちひろ	(株)コッカ	2006年 6月～9月
ジャパンテキスタイル コンテスト2006	シーズ賞	テキスタイルデザイン3年：舟橋美月	JTC開催委員会	2006年 10月
ペーパークラフト 作品コンテスト	パッケージング賞	ヴィジュアルデザイン3年：佐々木絵里子	笹徳印刷(株)	2006年 5月
	総務賞	ヴィジュアルデザイン4年：西牟田真実子		
	企画制作部門賞	ヴィジュアルデザイン3年：武藤理恵子		
コクヨデザインアワード2006	優秀賞	インダストリアルデザイン 3年：横山七絵	コクヨ(株)	2006年 4月～6月
サントリー商品開発選手権	第3位入賞	インダストリアルデザイン 3年チーム：石川聖子、木村かおり、 岡田美緒、新美友理	サントリー(株)	優勝決定戦 2006年 10月
日本インダストリアルデザイナー協会 学生プレゼンテーション&交流会	入賞	インダストリアルデザイン 3年：石川聖子、松浦 漠、長野真久、 岡田美緒	(社)日本インダストリアル デザイナー協会 中部ブロック	2006年 11月
クレイモデルエキジビション	スポーツカー デザイン公募合格	インダストリアルデザイン 3年：岡田美緒、富田裕貴	日本カーモデラー協会	2006年 8月
「ユビキタスな生活」 夢アイデアコンペティション	入賞	インダストリアルデザイン 4年：萩 真妃	(社)日本インダストリアル デザイナー協会 中部ブロック	2006年 2月



▲第2回コッカプリントテキスタイル賞で、審査員特別賞を授賞した工藤ちひろさん(左)



▲第38回日展で入選した今井かおりさんの作品「らくだ」

最近の学生部の活動を振り返って

学生部長 橋本裕明

後援会の父母の皆さま、日頃は本学の教育のために様々な方面でご支援いただき、心から感謝致しております。今後も皆様のご期待に応えて、本学の教育内容を一層充実して行きたいと思っております。

ここ数年間、大学の教育環境は大きく変化致しました。外的には、大学の第三者評価が法令化されて、教育と研究の水準、経営の健全性、また学生の福利厚生面で、個々の大学が一定の基準に到達しているかが問われるようになりました。本学も昨年度秋に、大学基準協会の審査を受けて合格はしましたが、大学としてもまだまだ改善面を残しておりますので、引き続き努力して行きたいと考えています。この第三者評価は7年以内に一度受ける義務がありますので、「大学点検評価委員会」のもと、今後も常に教育環境を点検し、

改善の実施を計画して行きます。父母の皆様も、大学へのご提言等ございましたら、是非ご意見をお寄せいただきますようお願い致します。

この間、本学は学生の学習に資するべくメンタル面での支援に取り組んで参りました。とくに学生相談室の充実を考え、専任の教員に加えて、数名の非常勤のカウンセラーを配置し、東西両キャンパスで授業時間帯はほぼ毎日開室し対応しております。また保健室の方も、両キャンパスに置いて、学生相談室と連携をとりながら、保健師が学生の傷病の手当てや精神面でのケアを行なっています。大学は学生が充実した学生生活を送れることを第一に考え、学習支援にますます努力して行きたいと考えています。

最後に、この6年間の学生部の仕事を振り返ってみて、大学としてはまだまだ色々な問題を抱えているというのが実感です。私自身も十分なことはできませんでしたが、保護者の皆さまのご協力により少しは改善できたかと思っています。今後とも引き続き、本学のためのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

大学へのお問合せ先一覧

内 容	担当部署	電話番号
学納金(学費)について	庶務会計課	東キャンパス 0568-24-0315 (代) 西キャンパス 0568-24-0325 (代)
休学・退学について 成績について 証明書発行について 課外活動・大学祭等について 教員免許・学芸員資格について 住所変更等について その他学生生活全般について	教務学生課	
就職について 資格取得講座について アルバイトについて	就職課	
本学入試に関すること 本学大学院進学について 本学研究生・研修生について	広報入試課	
交換留学について	国際交流センター(芸術文化交流室)	
生涯学習講座について	生涯学習センター(芸術文化交流室)	
音楽学部主催の演奏会等について	演奏課	
美術学部・デザイン学部の主催する 展覧会について	芸術文化交流室	西キャンパス 0568-24-0325 (代)
アート&デザインセンターについて	アート&デザインセンター(芸術文化交流室)	西キャンパス 0568-24-0325 (代)
後援会について	芸術文化交流室	

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお応えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報が含まれる内容に関しては、ご子女の「学籍番号」の確認、本人の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお応えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに応じることができませんので悪しからずご承知おきください。

なお、以上の理由から、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。

学生相談室からのメッセージ

デザイン学部教養部会教授
兼任学生相談室員 後藤 倬男

本学には東西両キャンパスに「学生相談室」が設置されておりまして、同じように両キャンパスに設置されている保健室とともに、学生をはじめ教職員の精神的・身体的な健康管理や問題解決への援助を行っております。

私は、2005年4月に本学に着任いたしました。これまで長年にわたって兼任で学生相談を続けてまいりました。本学でも、デザイン学部教養部会に所属して教養科目と教職科目を担当する一方で、4名の非常勤の学生相談室員（全員が臨床心理士の資格保持者）と分担して、相談に関わっております。どちらのキャンパスでも全学から相談を受けておりますので、両キャンパスでは、週5日（月～金）開室していることとなります（水曜日と木曜日は、両キャンパスで開室しております）。

両キャンパスでの開室時間は、担当相談室員によって少し異なりますが、午前10時過ぎから午後6時近くまで（昼休みを除く）になっております。しかし、終了間際の来室もしばしばあり、時には、休憩時間に保護者各位からの電話に対応することもありますので、各相談室員は、相談内容の秘密厳守に気を配りながら、待機・相談・記録・連絡などの厳しい業務を続けております。

本年度は、両キャンパスですでに700件を超える相談が行われております。それらは、学生相談室での「面接」が中心ですが、最近では、学生や教職員からの電話やメールによる相談や連絡、それに、面接予約などがありまして、常に緊張を求められる勤務になっております。また、夏休みなどの休業中も、緊急の相談があり得ますので、相談室員で分担して、「相談室専用の携帯電話」の管理をしております。

このような相談の昨年度の内容は、「精神衛生（メンタルヘルス）」が、全体の半数近く（43.6%）になっております。それに、「対人・異性関係」（17.1%）、「学習上の問題」（14.7%）、「進路・就職」（11.2%）、「家族」（8.0%）、「学生生活上の問題（アルバイトなど）」（2.7%）などが続いております。そこでは、最近の学生相談における特徴

が本学でも目立つようになり、深刻な心理的な問題についての相談事例が多くなってきております。

それらの中には、問題行動が発現している事例があり、苦しい状況から、学業をはじめ、家族や友人にも影響が及んでいる場合がしばしば見受けられます。学生相談室では、そうした学生本人の来談もありますが、教職員や家族・友人からの連絡によって対応することが多くなってきております。私たち学生相談室員は、専門のメンタルクリニックを紹介したり、状況に応じて、そのメンタルクリニックに打合せに出かけることもあります。このような緊急事例では、秘密保持に注意しながら、相談室員と本学の教員・職員・保健師との連携で対応することになり、保護者各位にも連絡して、その後の対応を協同して行っております。

本年度から新入生に行いました「学生相談室アンケート」において、学生相談室の利用希望を尋ねておりますが、本学では、「相談に行きたい」が予想よりも少なくなっております（6%）。上記の多数の相談件数は、「継続相談の多さ」を物語っておりますが、一方では、本学の特徴である「教員や友人との緊密な交流の中で、多くの問題が解決されていること」を表しているようにも思われます。しかし、学生相談室にも一層の啓蒙活動が求められておりますので、日常の活動に加えて、「ガイダンス」や「アンケート」をはじめ、「パンフレット」を常時提供し、また、「定期刊行物」を発行しております。

本学の学生相談室も、基本的な対応は「相談希望の皆さんの自発的な来談に適切に応じること」と考えておりますが、学生相談室に足が向かない「問題を抱えた学生や教職員」への支援を強く願っておりますので、後援会の皆様からの「来談のすすめ」をなにとぞよろしくお願いいたします。くわえて、最近の相談事例の増加と深刻化・長期化から、より充実した相談活動を進めるためには、「学生相談室の専任教員」がぜひ必要になってきておりますので、この点につきましても、ご支援を切望いたしております。



連絡先

東キャンパス電話 0568-24-0323 (ダイヤルイン 内線 529)
西キャンパス電話 0568-24-0350 (ダイヤルイン 内線 313)
携帯電話 090-5036-5178(東キャンパス学生相談室開室時間内のみ通じます)
予約優先メール soudan@nua.ac.jp (予約のみ。メール相談は行いません)

私 が 就職内定 を も ら う ま で

音楽学部 器楽科
弦管打選択コース
4年 鈴木 彩



「でたがり・やりたがり」である性格の私は、地元でさまざまな活動をしてきました。

「たくさんの人に音楽を届けたい・音楽と一緒に楽しみたい」と思い、専攻であるクラリネットをもって福祉施設でのボランティア演奏やカフェでピアノを演奏、また、地元のラジオ局の番組に度々出演させてもらったりしました。活動を続けていく中で、ある日、地元の広報誌に私が大きく取り上げてもらえることになりました。大きな顔写真と一緒に、私が今考えていること、勉強していること、これからのことなどを記事として大きく載せていただきました。その記事を多くの方に読んでいただき、私という人間を知ってもらうことができました。

そしてこの出来事をきっかけに、私の就職先も決まりました。私が4月から勤務する幼稚園の方が、広報誌の私の記事を読んで気に入っていただき、大学に連絡をくださったのです。幼稚園教諭という仕事に興味があった私は、早速実習に伺いました。理事長先生から「音楽教育にとっても力を入れており、ぜひ音楽を専門に勉強された方に教諭として来ていただきたい。」というお話をいただきました。私がこれまで積んできた音楽の経験を生かして、ぜひ子どもたちの成長の力になっていきたいと思い、引き受けることに決めました。

これから、大阪での新任研修・園での実習を経て、4月から働き始めます。多くの経験を積んで、子どもたちから愛される先生になりたいと思っています。

自分をアピールする手段はいくらでもありません。自分のやりたいことや長所を多くの人に知ってもらうことで、人とのつながりが生まれ、自分の将来につながるのではないかと私は思います。

(学校法人本郷学園 山手幼稚園音楽講師 内定)

デザイン学部 デザイン学科
ヴィジュアルデザイン選択コース 4年 丹羽恵里奈

「これだけは人に負けない」というものを一つでも見つけると、不思議と力が湧いてくるものです。私は就職活動を通して、「自分で決めた事をやり遂げる」という力を身につける事ができました。

今でこそ内定者という立場で話をする事ができますが、私の場合、最初から思うようには進みませんでした。苦労した経験の方が多かったと思います。

就職活動という流れを自分の感覚として早く掴みかかったという理由もあり、私は早くから様々な場所へ面接を受けに足を運んでいたのを覚えています。しかし、なかなか期待通りにはいかず、思わずやる気を失ってしまった事もありました。しばらくの間は辛い日々が続きましたが、この苦しい状況から逃げようとしなかったのは、「今は考える時間よりも動く時間」という事を自分自身に言い聞かせてきたからだだと思います。自分のやりたい事が実現できる場所を見つけるまで、決して諦めたくないと思いました。悩んでいる時間があつたら行動しよう。そう繰り返しながらひたすら前に向かう事だけを考えました。こうして就職活動を続けていく中で、私はついに自分が思い描くような会社と巡り会う事ができました。そして幸運にも希望の会社から内定という嬉しい結果を頂く事ができたのです。このことが、私にとって大きな自信と勇気を与えてくれました。

就職という未知なる事への挑戦には、勇気があると思います。けれども、その一步を踏み出してみる事で、また新しい道が開ける事を知りました。その一步を踏み出す事がいかに大切かを、私は身を持って学ぶ事ができて良かったと思います。

これからは、私にとって本当のスタートになります。「やればできる」という気持ちをいつまでも忘れずに、これからも前を向いて頑張っていきたいと思っています。

今まで御指導下さった先生方、そして温かい励ましをくれた家族や友人に、心から感謝しています。

(ブラザー工業株式会社 内定)

音楽学部 音楽文化応用学科
サウンド・メディア選択コース
4年 足立 憲治



芸術大学というのは固定観念を持たれるため、就職活動には不利であると言われていますが、これはまぎれもない事実です。企業の人事担当の方の多くは私達のような大学に偏見を持っておられる方が多いです。世間では就職バブルとも言われていますが、私の場合はあまり追い風にはなりません。選考においては大学名を問わないという企業も増えてきましたが、人数がしぼりこまれた場合はやはり大学名が選考結果に影響を及ぼすようです。そのため、面接の場では自分をしっかりと売り込むことが大切です。質問を予測し、それに対する適切な発言を予め練っておく必要があります。「芸術を学んでいて何故当社に入社したいのですか？」という質問はどの企業でも間違いなく質問されました。「自分のやりたいことばかりやっていて、世間を知らんやつに何ができる」と罵倒されたこともあります。世にいう圧迫面接というやつです。このような場合、怖気づかずに自分をアピールしましょう。自分という人間をしっかりと伝えることができれば、人事の方に思いが伝わるはず

私が就職活動を始めたのは、2月の上旬に名古屋ドームやポートメッセ名古屋で開催された大手リクルート企業の合同企業説明会からです。両当日にエントリーさせていただいた一般企業の中で、最終選考まで残ったところもありますが、当時は大学で学んでいることが生かせる仕事を探すつもりだったので、大きな収穫は得られなかったというのが本音です。それからは的を絞り、ケーブルテレビなどのテレビ関連会社に目を向けました。地上波デジタルへの切り替えに伴い、特にケーブルテレビなどは需要が増えると思ったからです。会社説明会に積極的に足を運び、東海三県で新卒募集をしていたケーブルテレビ会社はほぼ網羅したと思います。

その後も活動を続けた私は、面接には10社以上、説明会に至っては30社近く訪れたと思います。

就職活動を続けるうちに社会に対する考え方が変わってきた私は、最終的に一般企業の事務職に内定を頂きました。就職活動を行うことで、自分の為に得るものは多いです。すでに活動を始めて

美術学部 絵画科
洋画コース 4年 島川 明菜

私は、実は始めから教員になりたかったわけではなく、本格的に勉強したのは教育実習を6月の頭に終えてからでした。正直、今年合格できる自信はなく、でも絶対教師になりたいし、今年無理でも来年も受けよう、との思いで結果を待っていました。だから、合格通知をもらったときは、本当に嬉しかったです。

私が絶対教員になりたいとおもったのは教育実習がきっかけでした。それまでは、教員にも興味はありましたが、ホテルでのアルバイトの経験から、プライダル関係や、接客業を中心に、説明会や、試験も受けに行っていました。企業の様々の考え方を聞いたり、他の学生に出会えたことはとても面白く、とても貴重な時間を過ごすことが出来たと思います。しかし、同時に現実の厳しさも感じ、また、大好きな絵と全くかけ離れた職業に就いて本当に後悔しないだろうか、とも考えるようになりました。

そんな迷いの中で行った教育実習でしたが、授業や体育大会の練習などを通じて生徒と触れ合っていく中で、生徒が少しずつ成長していく様子や、良さを発見できるのが嬉しくて、私もともに成長し、生徒一人一人のことを見ていける教師になりたいと、自分のやりたいことを見つけることができました。

一次試験まで1ヶ月半しかないけれど、とにかくやってみようと思ひ、試験までの間、毎日朝から図書館の閉館時間まで勉強し、夜は家や漫画喫茶にこもって、一日10時間以上勉強し続けました。また、企業で面接を何度も受けていたことや、自己分析を早くから始めていたことも口述試験では本当に助けとなり、就職活動を始めて、内定をもらうまで、時間もかかったし遠回りもしたけれど、たくさんの経験ができ、自分の考えも深めることが出来、いろいろ挑戦してみても良かったと思います。4月からも教員として、すごく大変だとは思いますが、とにかく挑戦し、がんばっていききたいと思います。

(愛知県公立学校教員(中学・美術))

いる人もこれから始める人も、是非頑張ってください。決して無駄にはならないはず

(白月工業株式会社 内定)

親の想い

自分のやりたいこと

音楽学部 器楽科
ピアノコース 4年 父 渡邊一文

私の息子が名古屋芸術大学音楽学部に入學したのは平成15年4月。幼いころから、趣味として続けてきたピアノを、名古屋芸術大学で専門的に学ぶことになるとは思いませんでした。

息子がこの道に進むきっかけになったのは、高校3年生の夏に、名古屋芸術大学で行なわれた夏期講習に参加し、猪野先生と出会ったことでした。高校の卒業を間近に、進路を迷っていたときに、「ピアノを続けたら」の先生の言葉で、自分がやりたいことがはっきりしたことと思います。

息子は、この4年間、猪野先生をはじめ、諸先生方から多くのことを教えていただき、数多くのピアノ曲に挑戦し、習得することができました。また、ピアノの演奏会や声楽の伴奏の機会も幾度かあり、貴重な体験をすることができました。家では時間があればピアノの練習に励んでおり、「本当にピアノが好きなんだ」と、いつも感じていました。息子にとって中身の濃い、充実した日々であったと言えます。

演奏会や発表会では、息子の成長した姿を観ることが楽しみでした。演奏会や発表会に出向いた私どもに猪野先生から「息子さん一生懸命に頑張っていますよ」と言っていたとき、「ピアノを続けさせて良かった」と、親として安心感を抱いていました。

平成19年3月に名古屋芸術大学を卒業しますが、引き続き名古屋芸術大学の大学院に進むことになっています。将来、どのような道に進んでいくか、どのような職業に就くかは、いまだはっきりしていないところが親として心配なところですが、きっと、自分自身で見つけていくものと確信しています。名古屋芸術大学に入って、ピアノを続けようと自分で決心したように……。

温かく見守り、ご指導して下さった諸先生方、励まし、支えていただいた先輩諸氏学友の皆さん、そして、多くのことを学び、多くの方々と出会い触れ合うことができた名古屋芸術大学に深く感謝申し上げます。

創造する喜びをいつまでも

美術学部 造形科
造形選択コース 3年 母 島田加寿子

「今日も遅くなる。作品を作るために大学にいるから！」大変そうでも嬉々として本学で作品作りに追われる日々を過ごし、好きなことを勉強できる息子は幸せです。

小さい時からものづくりが好きで絵を描いたり、粘土をこねたりが日常でした。中学生の時には、授業でいろいろな材料を使ってオブジェを作る課題が多く出され、材料集めから始めることのできる作品作りは、息子にとっては楽しいものだったようです。

時は流れ、高校3年生の時、名古屋芸術大学に見学に行く機会がありました。自分のつたない作品やデッサンを優しく親切にアドバイスして下さいました。帰って来るなり「名古屋芸大入りたい！」と心に決めたようでした。

その日からキラキラと輝く目をして以前にも増して頑張り始め、そして合格の通知をいただいた時には親子共々本当にうれしかったことを昨日のこのように思い出します。

大学では才能豊かな友達や先輩たちと出会い、自分の未熟さを認識し、改めて勉強しなければと思ったようです。この大学で思いっきり芸術の勉強ができ、目指す目標を見つけることは喜びです。昔、私自身も作品制作に苦しんだ日々が一番の思い出になっております。きっと息子も芸術の勉強の奥深さ、大変さを実感しながらも喜びも多いことでしょう。

今後同じ志を持ち、時と場所を同じくして出会った友達を大事にし、また、すばらしい先生方と出会い、御指導いただいたことに感謝してほしいと思います。そして創造する喜びをいつまでも忘れないで努力を重ねてほしいと願っております。



子の想い

個性を生かしたジャズに

音楽学部 器楽科

ジャズ・ポップスピアノ選択コース 3年 中嶋友里

クラシックしか知らない私にとって、ジャズは無縁だった。慣れない音・少人数クラス。どうか格好だけでも戸惑い続けているうちに、もう大学生活も終わろうとしている。

実技面では『即興演奏』『コード進行』と言葉を聞いてもピンとこず、『練習不足だ』と言われてもどう練習するのかさえ分からなかった。今でも理解できているかは不明である。ただ時間があれば先生や友達に借りたCDを聴き、ライブがあると聞けば出来るだけ足を運んでいる。そして音さえ流れていればジャンル問わず足や指で、極力リズムをとる癖をつけた。次第に、少しずつではあるが聴いた・演奏したことのある曲が増え、楽しくなってきたところだ。

精神面も初めはつらかった。今まで感じたことのない劣等感など、自分の中の汚い部分を思い知った。『あの人より私の方がうまい』人と比べて価値を見出そうとしていた。音楽や芸術の世界で比べることなんて必要ない。『うまい』『下手』なんて、第三者の意見で、一人ひとり違うから好いのだ。たとえ他人の個性に影響されても、同じになるなんてあり得ない。だからいい。だから面白いのだと考えることにした。そうしたらすごく楽になった。

嫌なことも良いことも、色々経験し、まだまだ未熟者ではあるが、自分が納得のいく形で学生を終えたい。学生でしか味わえないことを残りの生活で目一杯楽しみたいと思っている。頭で考える前に行動できるくらいの積極性を持って、音楽人生にもっと色をつけたい。



本文とは関係ありません

「社会人」となる私の心構え

美術学部 絵画科

洋画コース 3年 森田暁子

私は来春、大学を去ることになると思いますが「ある寂しさ」よりも、就職するという現実にあふつかる時の戸惑いを覚えます。就職することは社会人になるということであり、当然「社会人としての心構え」というものが必要なんだろうと思います。個人的な心構えからいえば、なんといっても健康でなくてはなりません。毎日、きちんと出勤するには学生生活のように早かったり、遅かったり、休んだりではすまされません。つまり「怠け者」では許されないし、それでは不健康そのものではないでしょうか。まず私自身が朝早く起きて、父と母に顔を合わせたら大きな声で「お早うございます」と言いたいと思います。いままでのように押し黙っては駄目なんですね。組織の核である社員が怠けていたのでは、会社の生産性が上がる筈もないでしょう。そして、何よりも働くことが楽しくなければならぬし、そうなるような工夫が大事だと思えます。単に、一生懸命という勤勉さだけでなく「生きがい」を見出すことです。それは楽しく余裕ある生活とか趣味に没頭するということではありません。職業上の工夫、研究に努める事、その過程で成果を挙げる喜びです。そして与えられた仕事のみ実行するのではなく、いつも研究心を怠らせず精進することだと思います。また、女性としての品位を失わないようにしたいです。それには、相手に対して常に笑顔で接して、和やかさを与えることが大切です。そうした気持ちが会社の品位を保ち、社風や社会に対する信用も向上するはずですが。これからは少しずつではありますが「学生人」からの脱却を図り、よりよい有能な社会人になろうと頻りに思うこの頃です。



名古屋芸術大学後援会 研修旅行報告

「ヅカを観ずして死んではいけない」

本年度の後援会研修旅行は宝塚歌劇と奈良県立美術館における『応挙と芦雪』展覧会の鑑賞、そして奈良公園散策でした。従来の研修旅行は美術館めぐりが中心でしたが、今回はじめて宝塚歌劇という歌舞音曲方面の芸術にもアプローチしてみたのでした。旅費がその分例年よりも高くなりましたが、それだけの価値は充分にあったのではないかと考えております。

秋晴れに恵まれた10月21日、榊学長のご参加もいただいた名古屋芸術大学後援会一行36名は名古屋駅前をバスにて出発しました。名神高速を走るバスの中で、前事業委員長白井さんから重大ニュースの発表がありました。なんと白井さんの姪御さんが、本日これからわれわれが観る宝塚歌劇に出演されるということです。宝塚といえば、観るだけでもなかなかチケットが入手しにくくハードルが高いのに、その観られる側に立たれるという、何十倍もの競争を勝ち抜いて入団されたわけで、これはたいへんなことです。しかも、雪組・月組・花組・星組とあるなかで、よくも、われわれが観る雪組だったこと。笙乃茅桜さんという芸名です。



昼には宝塚大劇場に到着しました。劇場のレストランで昼食をとり、売店で売られているいろんな宝塚グッズをのぞいたりしながら、開演時刻を待ちます。コスプレ写真のコーナーなどもあります。ホールの扉前にはすでに長い行列ができています。いよいよ宝塚歌劇の鑑賞です。このときのわくわくした気持ちというのは、なかなかほかでは味わえない、独特のものがあります。

宝塚歌劇雪組公演『墮天使の涙』とレビュー・アラバスク『タランテラ』の2本立て。出演は朝海ひかる・水夏希・舞風りらさんほか、もちろん笙乃茅桜さんも。華麗なステージに目は釘付けとなり、気がついたらもうフィナーレでした。私は、宝塚ははじめてでしたが、素晴らしかったです。圧倒されました。この舞台を作り上げるのに費やされた才能と努力は並大抵のものではありません。ディープなファンが多いのもむべなるかなと思います。売店で買った中本千晶著『宝



塚読本』の帯にあるとおり「ツカを観ずして死んではいけない」です。研修旅行で宝塚が観られてよかった、と書いていただけたのだったら幸いです。

余韻にひたりながら、バスで有馬温泉へ移動しました。六甲の山道はカーブの連続で、今回の旅行で唯一気分がわるくなった箇所でした。こみあげてくるものをこらえて、なんとか辿り着いた有馬温泉月光園游月山荘での食事、宴会、温泉、カラオケはいつにもまして清く正しく美しいことでありました。『すみれの花咲く頃』もみんなで歌

いましたね。



翌日は奈良へ。奈良県立美術館の『応挙と芦雪』を神戸先生に解説していただきながら鑑賞しました。「写生画を確立した天才」円山応挙は学生時代日本史の授業で覚えましたが、その本物を目の当たりにして感慨深いものがありました。

いかにも日本画という感じの応挙に対し、長沢芦雪は応挙の弟子でありながら、「師と異なる奇抜な着想と大胆な構図、表現で個性あふれる作品を生み、近年では『奇想の画家』として脚光を浴びる奇才」といわれるとおり『虎図』や『牛図』の迫力ある絵が印象的でした。



観光ホテルタマルで昼食後、奈良公園一帯をめぐり自由行動で散策しました。東大寺大仏殿、若草山、春日大社、興福寺、国立博物館、と見るところには事欠きません。天気もよく、古都散策には絶好の日和でした。東大寺三月堂には天平時代の仏像がずらりと並んでいました。私はその配置を眺めながら、真ん中の不空鞞索観音はトップスター朝海ひかるで、日光菩薩は水夏希、月光菩薩は舞風りらだな、などと昨日の宝塚を思い出していたのでした。

事業委員長 澤井典生



2006年度

東キャンパス大学祭 NUA EXPO '06

今年の芸祭のテーマは「NUA EXPO '06」。東キャンパスとして短期大学部と共に作り上げました。

昨年は愛・地球博、今年はWBC（ワールドベースボールクラシック）やサッカーワールドカップ等、グローバルズム溢れる活躍を日本はしていません。音楽も同様で世界にはたくさんの音楽があり日本の音楽も世界で評価を得ています。そこで、今年は東キャンパス内に6つのステージを設け、同時進行で多彩な音楽に触れることができるようにしました。

UK・ロックガレージではポップスやロックなど、学生で編成されるバンドが熱いステージを見せてくれました。アメリカン・ジャズビレッジではゆったりと聴けるジャズから参加して楽しむジャズに分け進行していきました。オーストリア・クラシカルホールでは普段のレッスンの成果としてオペラ、ピアノの発表がありました。そして学生で構成する芸祭伝統スペルマホーンズの演奏ではホールをほぼ満員にするご盛況をいただきました。音楽に身を委ね踊れる場所としてダンス

ミュージックスクエアをご用意。今年初の試みでしたが、来年以降盛り上がる基礎が出来たのではないのでしょうか。全ての中心となる、グローバルステージでは、オープニングからクイズ、ビンゴ、ゲーム、ミスター&ミスコンテストなど企画を進め、夜には先生方や学生で構成されるバンドが毎晩締めくくりとして大きな盛り上がりを演出していただきました。そして短大メインのサテライトステージと6つのステージが見所満載に三日間を作り上げました。

三日間には学生、近隣住民だけでなく遠方からも来場者があり、模擬店を含め大きな賑わいがありました。音楽の発祥はジャンルによって違います。その音楽を世界を通じて知るのは今後の自分、そして未来に何かを残すのではないのでしょうか。この四年間を大切な思い出にするために、この三日間をみなさんの手で作り上げられたことに感謝いたします。

芸大祭実行委員（音楽学部）

実行委員長 清水康雅



2006年度 西キャンパス芸大祭

『だっすんだ？自分の世界を信じてシャララ☆？』

2006年度、芸大祭のテーマ「だっすんだ？自分の世界を信じてシャララ☆？」は、みんなが自分の世界を出しあえば、お互いを高め合う事が出来る…今、思っている事！表現したい事！本当はやりたくても恥ずかしくて出来ない事！間違ってるって思う事を全部！この芸祭を使ってだっすんだしてほしい！という気持ちから決まりました。この名古屋芸術大学に入学してきたみんなは、なぜ芸大という道を選んだのでしょうか？人それぞれだとは思いますが、何かやりたい事があったり夢があるからという人がほとんどだと思います。そんな人達のために、今年の芸祭は自分の事をアピールできる場所を作りました。模擬店企画展も50店舗以上出ました。

毎年の課題となるゴミ問題については、実行委員だけでなく模擬店の方々と一緒に、大学全体でゴミ分別を行ったことにより、昨年よりも少なくする事に成功しました。eco活動の一環として、芸祭中の本部を牛乳パックだけで作りました。夏休み前から学内で牛乳パック回収BOXを設置して学生に呼びかけました。外来イベント「どっこ

い」では、今までとは一味違ったものになったと思います。ライブペイント、ドラッグクィーン、プロレス、DJ、VJという、それぞれ違うジャンルのアーティストを招き、それぞれの世界をだっすんだしてもらいました。

最後にこの芸祭に参加してくれた人達には、自分の世界を信じるということを忘れないでほしいと思います。今の自分を信じて、思いっきり生き抜く事が未来の栄光だと私は思います。

芸大祭実行委員会（美術学部・デザイン学部）

実行委員長 小久保春摩



後援会補助公開講座実施報告

音楽学部

歌舞伎鑑賞教室

2006年10月12日、午後4時開演の御園座における歌舞伎鑑賞教室を行いました。かねてから声楽選択コースとしては、学生に日本の伝統芸術である歌舞伎を鑑賞させることは出来ないかと考えていました。この度、幸運にも後援会からのご支援を頂きこのような機会を得ましたことは感謝に耐えません。

今回の歌舞伎公演は、坂田藤十郎襲名披露公演でした。歌舞伎を見る上で、観客がもっとも喜ぶ坂田藤十郎襲名披露口上、坂田藤十郎の日本舞踊「枕獅子」、歌舞伎の定番である「梅雨小袖昔八丈、髪結新三」を教員も含めて75名の学生が観劇しました。この鑑賞に先立ち、本学国際交流センターの渡辺久男氏に今回の公演の見所やストーリーについて解説をしていただき、鑑賞の大きな助けとなりました。渡辺久男氏は歌舞伎を外国人に解説したり、大学で歌舞伎の鑑賞教室を行っています。

先ず学生たちは、歌舞伎の美しい華麗な舞台に

目を引かれ、役者たちの口上の巧みな切り口を楽しみ、また客席からの大きな掛け声に圧倒されていました。

そのあと70歳以上にもなる坂田藤十郎のあでやかな、美しい日本舞踊に魅せられ、最後の「梅雨小袖八丈」は2時間という長い歌舞伎で、始めは今の若い学生たちには受けないテンションの低い舞台だったが、だんだんすごみのある展開に、殆どの学生たちはのめりこんでいったように見受けられました。

終演後は一様に良かった勉強になったという声が聞けて、まさに歌舞伎の醍醐味を味わったように感じられました。今回の歌舞伎鑑賞をまた来年も続けていきたいという教員の一致した思いでした。

音楽学部演奏学科
教授 澤脇達晴

ポーランドの舞曲・チェンバロ演奏と舞踊について

後援会の補助を得て9月28日(木)14:45から東キャンパス3号館ホールにて公開講座が開催されました。ポーランドのチェンバロ奏者・エリザベータ・ステファンスカ女史と舞踊家2名の計3名で、当時の衣裳をまとい演奏に合わせて踊りが披露されました。

ピアノの勉強をする者にとってワルツ、マズルカ、ポロネーズといった舞曲は大変馴染みのある楽曲ですが、実際の踊りとなると日本では殆ど見る機会も少ないのが実状です。その踊りを目にし、

曲の原点を理解し今後の勉強に大いに役に立ったと思います。

最後には皆が舞台上がり、舞踊家の指導のもとポロネーズを踊って楽しい講座を締めくくりました。

音楽学部演奏学科
教授 白木宏子

後援会補助公開講座実施報告

美術・デザイン学部

家具を Re: DESIGN する



デザイン学科スペースデザイン選択コースと、インダストリアルデザイン選択コースの学生が、海外も含め参加デザイナー、企業、ショップの数がダントツに多い、さすが世界の東京と感ずる「東京デザイナーズウィーク」に参加してきた。名古屋芸大のギャラリーで展覧会を開催したグラフィックデザイナー水野学氏、今や国際的に活躍されているプロダクトデザイナー深沢直人氏も参加し、1週間では全部見られないくらいに、刺激的で面白いイベントであった。メインは、企業、ショップ、デザイナー、デザイン事務所であるが、50以上の大学も参加し、学生たちが一般の人や、プロのデザイナーに向けて情報発信する貴重な場であった。名芸大だけではなく他の大学も参加しながら、新しいデザインや実験的デザインを楽しんでいた。

昨年からは地元名古屋で何かできることをということで、栄、伏見、金山近辺のいくつかの会場を散策しながら、デザインのシャワーを浴びる DESIGNER'S WEEK IN NAGOYAに参加。2006年は10月19日から4日間、リノベーションされた伏見の長者町界隈の古いビルが、名芸大の会場となり、私たちのデザインテーマがre-designであったことも幸し、たいへん好評であった。学内で使われてきた椅子や机で廃棄されるものを集め、それらを使って別の家具や道具をデザインした。学内の工房や設備をフルに使い、鉄パイプを



自在に曲げ、溶接し、木板に溝をあけたり、曲げたり、組み合わせたりして制作。時には、近くの工場の助けを借りての、全て力作であった。

デザイン学科 スペースデザイン選択コース

教授 平田哲生



今年度も 3つの国際交流プロジェクト

美術学部版画研究室 助教授 西村正幸

版画研究室では毎年、次の2点における効果を期待して、対外的な交流を積極的に行なっています。ひとつは、学生たちに"造り手の現場"を間近に体験することの効果。もうひとつは、対外的な広報としての効果。

学生たちが頭と腕の鍛錬をする柱(通常の授業)を強力に補う意図で、今年度も3つの"造り手の現場"としての特別行事を開催し、後援会からのサポートをいただきました。

- ・恒例のデンマーク、ブランデ市のレミセン・アカデミーから招聘した2名のデンマーク人作家によるアーティスト・イン・レジデンスと展覧会
- ・Art & Design Center秋の企画展～台北のメディア・アーティストによるアーティスト・イン・レジデンスと展覧会
- ・デンマーク、ブランデ市のレミセン・アカデミーのワークショップに招聘された2名の卒業生作家による報告展

デンマーク・プロジェクト

2名の画家が来日

「From Remisen ;
Inge-Lise Ravn & Lene Luhler」展

- * 公開制作：2006.5.10(水)～31(水)
於 スタジオ(アート&デザインセンター)
 - * 特別講演『自作について語る』：5.16(火)
於 大講義室(B棟2F)
 - * 展覧会：6.2(金)～14(水)
於 ギャラリーBE(アート&デザインセンター)
 - * オープニング・レセプション：6.2(金)
於 ギャラリー・ラウンジ(アート&デザインセンター)
- 主催：版画研究室、同時代表現研究
後援：名古屋芸術大学後援会、
Denish Arts Council、P.S.COMPANY

1996年に、私が日航財団からの奨学金を得て、約1年間ドイツに滞在していた際、ブランデ市で開催された"International Workshop for Visual Artist in REMISEN BRANDE"に招待されたのが縁で、1999年度より、レミセン・アカデミーと本学との2名ずつの作家の交換プロジェクトが始まりました。毎年7月に約3週間、レミセンと呼ばれる機関車庫跡の大きなアトリエに、欧州を中心とした約20名の平面作家が、画廊などを仲介して招聘され、公開制作と展覧会を行なうアーティスト・イン・レジデンスに、本学卒業生作家2名の枠が確保されています。

今年は、デンマーク側からは、インゲリーゼ・ラヴン氏とレネ・ユラー氏の2名の女性作家がGW明けに来日し、約1ヶ月の公開制作(アート&デザイン・センター内スタジオ)〈写真A〉と特別講演会(B棟2F大講義室)、スタジオで制作した作品による展覧会『From Remisen』展を本学内ギャラリーBEで開催しました。〈写真B〉



▲写真A 制作中のレネさんを訪ねる学生たち



▲写真B インゲリーゼさんの作品

台北のメディア・アーティスト IT Park Art Galleryとの交流

「Pass-空間の中のリズム；台北のメディア・アートから」展

近年、アジアの現代美術は非常に活発な動きを見せています。とりわけ台湾のアートシーンは国際的な評価を得ています。今年度の秋の企画展として、国内外に積極的に作品と情報を発信している台北のIT Park Art Galleryを拠点に、海外でも取り上げられる機会が多い3名のメディア・アーティストによるアーティスト・イン・レジデンスとインスタレーションによる展覧会<写真C>を開催しました。来日したトン・ブー氏(男性)とライ・ツンツン氏(女性)はIT Park Art Galleryの創設メンバーでもあり、チェン・ハイ・チャオ氏(女性)は彼らの教え子でもあり、IT Park Art GalleryのWeb広報担当も担っており、公開制作中も、制作の様子や学生たちが展示をアシストしている様子も、彼女が台北経由で世界に配信して、効果的な広報をしてくれました。ちなみに、トン・ブー氏がオブジェに使った3本の木は、現在デザイン棟前広場の一角に植えられています。

*公開制作：2006.10.13(金)～26(木)
於スタジオ(アート&デザインセンター)
*特別講演『台北のメディア・アート・シーンについて』：10.19(木)
於大講義室(B棟2F)
*展覧会：10.27(金)～11.8(水)
於ギャラリーBE & be(アート&デザインセンター)
*オープニング・レセプション：10.27(金)
於ギャラリー・ラウンジ(アート&デザインセンター)
主催：名古屋芸術大学
後援：名古屋芸術大学後援会、
日本映像学会中部支部、P.S.COMPANY



▲写真C チャオさんの作品(左)とトン・ブーさんの作品(中央と右)

デンマーク・プロジェクト 2名の卒業生作家による報告展

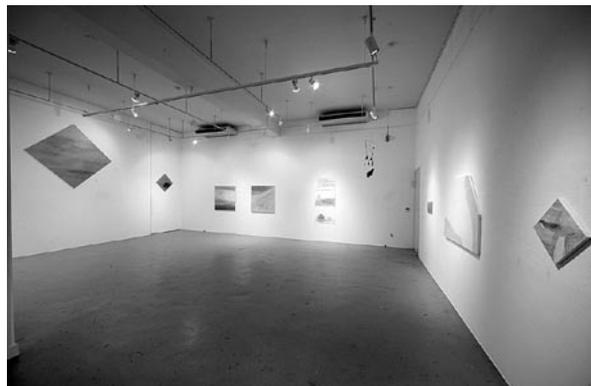
「After Remisen #8；五十嵐英之×百合草尚子」展

*展覧会：2007.1.26(金)～2.7(水)
於ギャラリーBE & be(アート&デザインセンター)
*オープニング・レセプション：1.26(金)
於ギャラリー・ラウンジ(アート&デザインセンター)
主催：版画研究室
後援：名古屋芸術大学後援会、P.S.COMPANY

7月にブランデ市で開催された"International Workshop for Visual Artist in REMISEN BRANDE"に出かけてもらった卒業生作家は、五十嵐英之氏と百合草尚子氏(共に洋画コース卒)のお二人でした。五十嵐さんは現在京都に在住し、百合草さんは名古屋市に在住し、全く対照的な作風がとても素敵なハーモニーを奏で、見応えのある展覧会となりました。

<写真D> レミセン・アカデミーの代表ビルギットさんから、素晴らしい作家を送っていただいたとの感謝の手紙が届きました。

後援会のサポートで、A6版16頁カラーの小冊子を作成させていただきました。まだ残部がありますので、必要な方は版画研究室までご一報いただければ、お送りします。



▲写真D



▲写真E

3つの展覧会を通して感じたのは、オープニング・レセプションに出席してくださる方々が以前に比べ、非常に多くなって来たことです。学外や遠方からの方も、また学生たちも、本学のアート&デザインセンターでの企画展を楽しみにしてくれているのだと、アート&デザインセンターの立ち上げに関わった者としてはうれしい限りです。

ブレーメン・ナゴヤ アートプロジェクト'06

ブレーメン開催展に立ち会って

ブレーメン芸術大学学長P・ラウトマン教授、竹岡雄二教授や学生たちからの招待を受けて、名古屋芸術大学側の学生、卒業生13名は8月の下旬、2班に分かれてドイツブレーメンに旅立った。

学生たちは市内のアパートに合宿して、大学での打合せや作品展示の準備に入った。

2006年9月7日から15日までの会期で、2会場での国際交流美術展が開催された。オープニングレセプションに出席した、前名古屋芸術大学長大島俊三教授のお礼の挨拶などの後、出品者作品のパフォーマンスがレセプションに花を添えた。

会場は大学のギャラリーに加えて、名古屋での旧味噌蔵や旧織機の産業記念館と同じような、使い果した市内の旧警察署のビルディング全館が出品者30名のメインの展示会場となった。この古い建物は参加した学生たちにとって、かなりリアルな刺激があり、都市や社会との彼らの体験の記憶が喚起される空間となったであろう。会場の出品作の空間では、展示されている各部屋の窓から見えるブレーメンの町々が、作品に連続して視野に入り、作品印象の記憶の一部を構成することとなった。

2003年9月に竹岡雄二教授を名古屋に招いて、ドイツの芸術大学の教育方法をお話いただいたが、日本のそれとの大きな違いに驚いたことを憶えている。それぞれの大学で学んだ学生たち



▲ブレーメンの学生グループ作品

によるプロジェクトを進める過程で、異なる価値や認識の衝突によるとまどいもあったであろう。しかし同じ目的を共に実現することによって、交流の意味がより自覚されるのだと思う。名古屋とブレーメンの異なる会場で異なる作品の発表が経験出来たことで、国際交換による交流が完成されたと言えることが出来る。このプロジェクトの記録のまとめとして名古屋展の記録集が既に発刊されているし、この2月現在、ブレーメン展の編集をブレーメン芸術大学側で進めている。

最後に、このアートプロジェクトに日本とドイツの多くの機関や個人の方々の支援と協力を頂いたことに対し、心から感謝の気持ちを表したい。ありがとうございました。

美術学部造形科
教授 庄司 達



▲荒川美由喜さんの作品



▲ブレーメン・名古屋芸大の先生 ミーティング

2006年度 デザイン学部 レビュー展

デザイン学部デザイン学科の学生(1年から3年まで)が一年の研究成果を発表する「REVIEW展」の時期が今年もやってきた。年が明けてすぐの授業時間で準備・展示等をおこなわなければならないため学生も教員も大変だが、自分自身の足跡を確認したり上級生の仕事をみて自分の進路の参考にしたり多くの成果がある。外部からの来場

者も年々増えて展覧会としての風格も備わってきたようである。

1年生にとってはこの「REVIEW展」が自分の作品を展示する最初に機会になる場合が多いだろう。実際にやってみて気づくことだろうが自分の作品を展示することは自分のしごとを客観的にみれるよい機会で、そのことからまた新しいアイ

デアを浮かんできたりするものである。授業を聞いて課題をやって、または展覧会を観たりいろんなものを見に行くことは大変良い勉強だが、このように自分の作品を展示してそれを客観的にみたり、他人からの意見を聞いたりすることはとても良い勉強になるのです。

今後は受験生などにもアピールして観に来るようにしていきたいと考えています。なお、「REVIEW選抜展」は下記のような日程でこれから開催されるのでぜひ見に来てください。



「REVIEW展」

2007年1月11日～17日
一般公開：1月13日(土)14日(日)
体育館+デザインギャラリーX+G棟
などの教室

「REVIEW選抜展」

4月4日(水)～11日(水)：アート&デザインセンター
4月4日(水)～4月中旬：デザインギャラリーX
いずれも日曜日休館



デザイン学部デザイン学科
講師 瀬田哲司

名古屋芸術大学音楽学部 第34回卒業演奏会

3月1日(木)、2日(金)の2日間、しらかわホールにて、名古屋芸術大学音楽学部第34回卒業演奏会が行われた。今年は昨年に比べ集客数は減ってしまったが、各コースから選ばれた27人の学生が、4年間の集大成とも言うべき個性豊かな演奏で、観客を魅了していた。

音楽学部演奏学科 講師 依田嘉明



名古屋芸術大学大学院音楽研究科 第9回修了演奏会

3月6日(火)～3月8日(木)の3日間に渡り、しらかわホールにて、第9回大学院音楽研究科修了演奏会が行われた。教員・卒業生を中心に編成されたオーケストラをバックに、研究科修了演奏にふさわしい高度で卓越した技術を披露していた。また、今年は研究科音楽学専攻生による作品発表もあり、それぞれが自分の考える世界観をみごとに作品によって表現していた。

音楽学部演奏学科 講師 依田嘉明



第11回名古屋芸術大学大学院美術研究科デザイン研究科修了制作展

第11回名古屋芸術大学大学院美術研究科デザイン研究科修了制作展が3月13日(火)から18日(日)まで名古屋市中区伏見の電気文化会館東西ギャラリーで行われました。この春、大学院を修了する学生たちの創意工夫の中から作り上げられた作品が展示されていました。

芸術文化交流室



第34回名古屋芸術大学美術学部・デザイン学部卒業制作展

「第34回卒業制作展」を終えて

学生たちの学部4年間の集大成として、今年も卒業制作展が2月27日(火)～3月4日(日)の期間開催されました。

今年は愛知県美術館ギャラリー(8階)と名古屋市民ギャラリー矢田に加え、新たな試みとして、本学アート&デザインセンター及び学内の屋外展示が加わり、計3会場での同時開催となりました。

愛知県美術館ギャラリーには、日本画コース、洋画コース、デザイン学部の卒業作品と美術文化学科の卒業論文などが所狭しと並び、熱気に溢れていました。

また名古屋市民ギャラリー矢田の第2～7展示室(3階)には、造形科と版画選択コースの作品が並び、洋画コースとデザイン学部の希望者が、大きな第1展示室(4階)に、規模の大きなインスタレーションと映像作品を展開し、ゆったりとした展示で、美術館と比較して少ない来場者数を補う内容となっていたように思います。

今年も、各コースが会期中に開催する講評会などを印刷して受付で配付し、来場者にも公開しました。すべてに顔を出せませんでした。土曜日に行なわれたインダストリアルデザイン選択コースのプレゼンテーションには、相変わらず学外の関係者も交えた人だかりができ、活気に満ちた場となっていました。

また、大学院修了制作展(3月13日～18日、電気文化会館東西ギャラリー)とあわせた4会場の内、3会場を回ると学生作品が当たるスタンプラリーを今年も実施しましたが、今回は版画選択コース4年生、大学院生の額入り小品(A4サイズ程度)20点に加え、洋画コース4年生の額入りドローイング16点、ガラス選択コース4年生のペーパーウエイトなど18点が加わり、分散した会場に少しでも多くの来場者をと考えて始めたこの試みも、にぎわいを見せつつあり

ます。作品の抽選会は、修了展の終了を待って、学生たち立ち会いで行ない、3月末までに発送する予定です。

来場者数は、愛知県美術館ギャラリーには3,939名、名古屋市民ギャラリー矢田には933名、学内展示には357名の延べ5,229名の方々が今年の卒業制作展に足を運んでくださいました。特に大学まで訪れてくださった方々が予想外に多かったことは、とてもうれしい収穫で、次年度以降、開催中の学内イベントも検討したいと考えています。

学生の皆さん、教職員のみなさん、本当にご苦労さまでした。

卒業制作展委員長 西村正幸



留学レポート

イギリスブライトン大学留学レポート

(2006. 9. 13~12. 27)

大学院 美術研究科 同時代研究 1年 森田 佳奈

9月

大学はまだ始まったばかりでまだまだこれからという感じだ。アトリエは一人一畳くらいのスペースだがとても綺麗で使いやすいスペースだ。自分の制作が自由に集中してできる環境であると思う。画材の違いに戸惑いながらもその変化を楽しんでいる。制作時間も朝から夕方まで制作する時もある。生徒も熱心に制作していて作品をみてまわるのもいい刺激になる。

教授もとても親しみやすく親切にしてくれる。フォリオレビューと言う自分の作品について教授と話す機会があったのだが、うまく自分の考えていることを伝えることができずとても歯がゆい。少し英語を話すスピードが速くて所々理解に苦しむ。大半は理解できるのだが、いざ自分が話すとなると英語でどう伝えれば良いかわからない。話せないなりに一生懸命伝えようと努力している。図書館も大いに活用し、よく出入りしている。画集が充実していてとてもいい。週末は町を歩いたり、ロンドンに行ったりしている。

ブライトンはまだ暖かく過ごしやすい。日差しもあり歩くのにはとてもいい。海にいったらぼーっとしたり公園でぼーっとしたりするのが気持ちいい。寮生活はとても快適だ。独り部屋、キッチン共同で他の国の人たちと交流できて楽しい。こちらは物価が高いのでなるべく自炊をしている。食べ物が日本と全くちがうのでまだまだ慣れない。野菜をとるように心がけている。インターネットも自分の部屋ですることができる。こちらは新学期なので飲み会がよく行われていて何回か参加した。たくさんの人と話ができるのでとても嬉しい。

10月

大小様々な紙にペン、インク、アクリル、鉛筆、マーカー、色鉛筆、水彩、クレヨンを使って制作をする。主に公園、庭、木、日常生活で思ったこと感じたことを描く。個別指導が毎週のようにあって、自分の制作について話さなければならぬ。英語があまり聞き取れず苦労する。英語力のなさにしばしば落ち込む。自分の制作について何度も言葉にすることはとても良いことのように思える。自分の考えが整理される。

ブライトンの学生の前で自分の作品について話す機会があった。みんなの自分の絵に対しての意見も聞くことができて面白かった。日本でこういった機会はあまりないから新鮮だった。

滞在が一ヶ月を過ぎたころから素直に絵が描けるようになってきた。来る前までの留学の計画に縛られすぎていた。どこかで計画どおりにしなきゃと思っている自分がいて、なかなか絵が進まなかった。学校もほぼ毎日行って制作をしている。ブライトンの学生が熱心に制作をしているのでとても刺激になっている。

連日の飲み会や食



事のバランスがうまくとれないことがあって胃を壊して一週間くらい体調不良が続いた。もうこのまま入院しなくちゃならないのかと不安になったが、日本食を作るようになって体調が戻った。つくづく日本人なんだなあと感じた。一日の中で一品は日本食を食べるようにしている。前期に名芸に来ていた留学生の家に行ったり、寮の仲間と話したり（私は主に聞いているだけになってしまう）して楽しんでいる。週末はロンドンのギャラリー、美術館、庭などに行き刺激を受けている。感動することが多い。

サマータイムが終わったとたん気温が下がり出してもう冬のように寒い。冬を無事に過ごせるのか心配になる。寮の部屋も寒い。

11月

大きな紙に制作をするようになり、やっと自分のペースで制作ができるようになってきた。教授に水彩をもっとやって見たらどうかといわれたこともあって水彩を中心にやっている。同じモチーフを何度も色を変えたり構図を少し動かしたりしながら、枚数を重ねてっている。個人面談は的確なアドバイスをもらえていい。名芸にも導入して欲しい。自分は今何をしているのかを確認するいい機会になる。ブライトンの学生はもうじき成績が出るので作品がどんどん出来ていて見ていてこちらもやる気が出てくる。

11月は私の24回目の誕生日ということで寮のキッチンにてささやかなバースデーパーティーを開いた。11月になり、やっとイギリスにいるという実感がわいて来た。2人の英国人の女の子が寮に入って来てくれたおかげだ。心地のいい英語が飛び交っている。

12月

12月に入ると天気が崩れだして外に出るのも少し困難な日が続いている。

15日には授業が終了。寮の友人たちがお別れパーティーを開いてくれた。とても嬉しかった。過ごした3ヶ月、仲良くなった友人、何もかもがいとしく思えた。

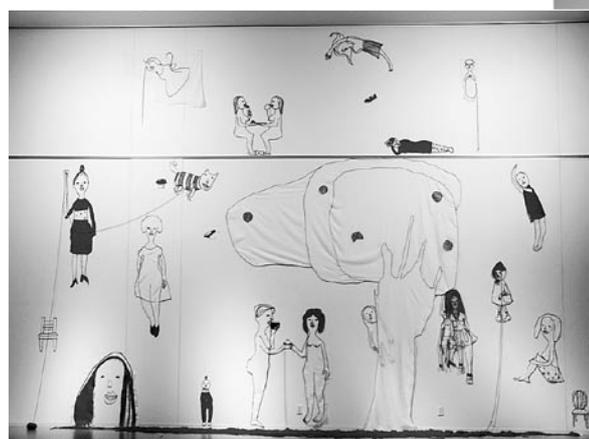
留学は私のなかでとても意味のあるものになり、もう二度と経験ができないくらい濃い三ヶ月だった。自分の作品について話すこと考えていくことの重要さが見にしみてわかった。制作だけをずっとできることがとても嬉しかったが、いろんな国の人たちと交流できるのが面白かった。日本に居るだけではみえてこない世界を体験した。

2006年度ブライトン大学賞

イギリスのブライトン大学賞の授賞式が、3月2日(金)午後4時より名古屋東急ホテルにて行われました。ブライトン大学よりカレン・ノーキ教授とチャーリー・フーカー教授が審査員として卒業制作展の3会場を見られ各受賞者を決定しました。各受賞作品の講評とともに賞状と副賞が、ノーキ教授より手渡されました。

2006年度ブライトン大学賞入賞者一覧

No	賞	副賞(奨学金)	科・コース	氏名	作品名
1	1等賞	60,000円	絵画科(洋画コース)	野尻綾希子	「liberation」
2	2等賞	40,000円	絵画科(洋画コース)	丸井香奈	“楽しさ☆” “幸せ♪” 3歳のhappy life / 21歳のhappy life
3	3等賞	20,000円	デザイン学科造形実験選択コース	浅井千恵	Do≠oR
4		20,000円	造形科工芸(ガラス)選択コース	溝渕直人	五月雨
5		20,000円	デザイン学科造形実験選択コース	吉田義宏	夢のつづきを…
6	佳作	図書券 5,000円	デザイン学科 ヴィジュアルデザイン選択コース	成田一美	『新しい楽譜』“La La La” The colour of music
7			造形科造形選択コース	青木万樹	1+1+1+1+1+1+1+1+1=0
8			デザイン学科 イラストレーション選択コース	所里江子	不思議の国のアリス
9			デザイン学科 スペースデザイン選択コース	吉江真二	Skin of floor
10			デザイン学科 ライフスタイルデザイン選択コース	伊藤早希	TRACES ～けすコト・きえるコト・のこるコト・ のこすコト～
11			絵画科(洋画コース)	宮脇木綿子	輝く道 I / 輝く道 II
12			デザイン学科 インダストリアルデザイン選択コース	永田敦子	Skin Care Lotion Kit
13			デザイン学科 ヴィジュアルデザイン選択コース	中村文隆	STOP! ORGAN SALE!



▲野尻綾希子さんの作品



◀浅井千恵さんの作品



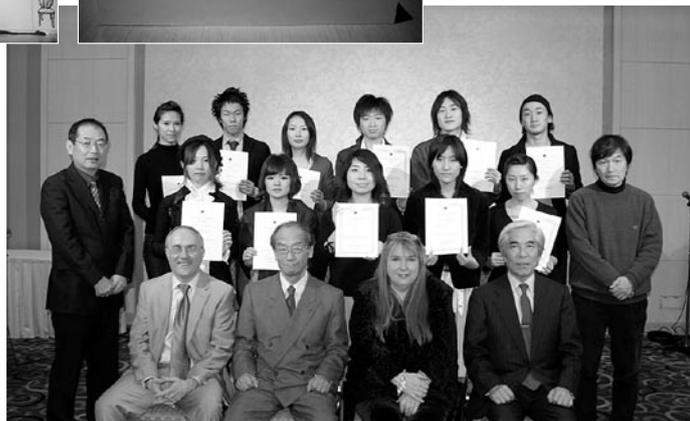
▲吉田義宏さんの作品



◀溝渕直人さんの作品



▲丸井香奈さんの作品▲



▲受賞者のみなさん

第17回 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座（報告）

今年度は、大学キャンパス内での講座を29講座開設いたしました。そのうち20講座を開講することができました。9講座は申込者数が一定以上にならず、やむなく閉講してしまいました。結果的には、例年とほぼ同じの受講者数です。しかし、名古屋市生涯学習推進センター主催の「大学連携講座」において4講座開設しましたが、受講希望者が定員の2倍以上の申込となり、抽選しなければならないという、うれしい悲鳴となりました。以下は今年度開講した講座と受講生数の一覧です。なお、2007年度の講座は6月中下旬にパンフレットが出来上がる予定です。お問い合わせは、本学芸術文化交流室までお願いします。なお、名古屋市の講座につきましては、名古屋市生涯学習推進センターにお問合せください。（芸術文化交流室）

I. 名古屋芸術大学生涯学習大学公開講座

	講座名	受講生数	開催場所
1	木彫を楽しむ PartⅧ	16	西キャンパス
2	人物（着衣）のデッサンと油絵実技	24	
3	芸術？出版社	8	
4	やさしい創作折紙	9	
5	Macintosh 3Dグラフィック入門！ ～Shadeで簡単3DCG制作～	9	
6	自分で出来る介護予防マッサージと 介護予防運動	7	
7	今日から私も陶芸家	12	
8	美しい水彩画Ⅱ 秋の風景、花、果実を描く	30	
9	デッサンと彫刻小品をつくる PartⅡ	7	
10	美術鑑賞入門 - 西洋美術の流れ -	7	
11	楽しもう絵手紙を！	8	
12	体験！吹きガラス	10	
13	オリジナルマフラーの制作	4	
14	韓流映画の原点を愉しもう！	7	
15	音楽療法で使用される音楽技法	15	東キャンパス
16	パソコンを使って 簡単な作曲をしてみよう	12	
17	親子で楽しむリズム遊び （2歳児以上）・（2歳児未満）	42	
18	インターネットと 簡単なホームページ作成	13	
19	遊びと子どもの育ち	38	常滑工房
20	常滑工房 陶芸教室	5	
	合 計	283	



▲親子で楽しむリズム遊び



▲オリジナルマフラーの制作



▲パソコンを使って簡単な作曲をしてみよう



▲木彫を楽しむ PartⅧ

II. 名古屋市生涯学習大学連携講座

	講座名	受講者数	開催場所
1	寺院・仏教・仏像～日本編～	58	名古屋市 女性会館
2	音楽を観て絵画を聴こう（音楽鑑賞 初級入門）	34	
	合 計	92	

III. 名古屋市生涯学習大学連携シリーズ講座

	講座名	受講者数	開催場所
1	音楽の効能	109	名古屋市 女性会館
2	ルネサンス・バロックの名画を 読み解く	92	
	合 計	201	

音楽学部同窓会・音楽学部共催 名古屋芸術大学 音楽学部卒業生懇親会

去る、昨年12月9日(土)、名古屋マリオットアソシアホテルに於て、音楽学部同窓会、音楽学部共催の「卒業生懇親会」が開催されました。今回の懇親会は開催日がクリスマスに近い土曜日であったためか、卒業生のご子女も合わせ270名程の出席があり大盛会となりました。開会に先立ち澤脇副学長のあいさつでは、2007年4月に開設予定の「人間発達学部」についての説明があり、聞き入っていた卒業生からは「ほお～」との感嘆の声。また、懇親会では、器楽科弦管打専攻2期生の高木直喜さんが、功績のあった方に贈られる「ゴールデンプライズ賞」を受賞されました。

今年度卒業生で6000名を越える音楽学部同窓会。例年行なわれる懇親会は卒業生の帰属意識をはかるバロメータにもなっています。

東キャンパス 広報入試課長 金子 靖
(11期器楽科弦管打専攻卒業)



▲昨年にも増して受付は大変！



▲来年は料理をもっと増やします・・・

名古屋芸術大学 美術学部・デザイン学部 第19回同窓会総会/懇親会

去る、11月18日(土)名古屋芸術大学美術・デザイン学部の第19回同窓会総会・懇親会が名古屋市東区の白亜館 葵において開催されました。今年も懐かしい同窓生の顔ぶれに混じり、卒業したばかりの新しい同窓生(33期生)の顔も見受けられました。総会では、青木会長の挨拶に始まり、平成18年度事業報告・決算報告に続き、平成19年度事業計画・予算案が原案通りに承認されました。その後の懇親会においては来賓に榊学長をはじめ部長の先生方、大島元学長にも御出席いただき、120余名の盛会となりました。前回と同じ会場であり、来賓の挨拶、同窓生の活躍を称えるゴールデンプライズの授与、ビンゴゲーム等、進行もスムーズに行われ参加者も終始リラックスした雰囲気の中、楽しい集いの場となりました。

絵画科洋画コース教授 杉浦 尚史
(5期 絵画科洋画コース卒業)



▲総会風景



▲懇親会風景

後援会授業料貸付事業

世間では景気がよくなっているといわれますが、なかなか庶民はそれを実感することができません。このような中で決して安いとは言えない芸術系大学の授業料は、家計を直撃しているのではないかと思います。こうした状況の中で、保護者が亡くなられたり病気になられたり、失業された家庭は、ひどく大変だと思います。このような家庭の学生諸君の少しでも助けになればと考えて始められたのが、後援会の授業料貸付事業です。1993年にこの事業が始まってから、現在までに60数名の学生がこの事業の恩恵を受けています。

後援会員の皆さんが納められた会費を、この事業の基金としているため、むずかしい条件がついていますが、次の貸付規程を読まれて、後援会の授業料貸付事業を活用していただけたらと思います。申込受付窓口は、各キャンパス教務学生課となっています。気楽に相談してみてください。

名古屋芸術大学後援会学費資金等の貸付規程

(目的)

第1条 名古屋芸術大学後援会（以下「後援会」という。）が行う学生の福利厚生事業の一環として、家計急変等により学費の納入が困難な学生に対し、後援会が学費を貸し付けることにより修学を援助することを目的とする。

(定義)

第2条 この規程により学費の貸付を受ける者を、名古屋芸術大学後援会学費貸与生（以下「貸与生」という。）と称する。貸付する学費を名古屋芸術大学後援会貸付金とする。

(資金)

第3条 学費貸付金は次の資金をもってこれにあてる。

- (1) 後援会学費貸付口座預金
- (2) この規程に基づく返還金
- (3) 寄付金・その他の収入

(貸付額)

第4条 該当学年の学生納付金半期分以内とする。

- 2 貸付金は無利息とする。
- 3 未返済金がある者に対しては、貸し増しは行わない。

(貸付方法)

第5条 学費貸付は、大学授業料口座への振込みによって行う。

(審議)

第6条 貸与生及び貸付額の決定に関しては、学生部長が大学の全学教務学生委員会の審議を経て、後援会会長に推薦する。

(貸与生の決定)

第7条 貸与生の決定は、後援会会長が行なう。

(貸与生の選考基準)

第8条 貸与生の選考基準は、以下に基づいて選考する。

- (1) 1年以上継続した本会会員の子弟であること。
- (2) 家計急変等のため本学に修学することが、特に困難であること。
- (3) 応募者の属する世帯の1年間の総所得金額が独立行政法人日本学生支援機構の収入基準以下であること。
- (4) 修学に十分耐うるものと認められること。

(申請手続)

第9条 学費貸付を希望するものは、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

なお、手続は学生部教務学生課を窓口とする。

(1) 後援会貸付金借用願

(2) 貸付金返済計画書

(3) 学費貸付希望者の所属する学科長の推薦書

(4) 学費貸付希望者の属する世帯の1年間の総所得金額を証明する書類。

(借用手続・借用証書)

第10条 学費貸付決定者は、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

- (1) 借用証書（借用願と同じ保証人および連帯保証人の連署を要する）
- (2) 貸付金返済計画書に基づく同意書
- (3) 銀行口座振替依頼書（自動送金サービス用）（学籍を離れる時に提出するものとする）

(返還及期間)

第11条 貸付金は、学籍を離れてから3年以内で返還しなければならない。ただし、借用願出の際に虚偽の記載があった時は、直ちに返済するものとする。

- 2 返還方法は、一括返済または元金均等割とする。
- 3 貸付金の返還は、いつでも繰り上げて返還することができる。
- 4 返還は、学生部教務学生課を窓口とする。

(返還猶予)

第12条 貸与生が傷病・その他やむを得ない事由によって返還猶予を願い出たときは、相当と認める期間猶予することができる。

(権限委任)

第13条 この規程に基づく学費貸付金の貸付手続き及び返済收受等の一切の権限を学長に委任するものとする。なお、この規程で疑義が生じたときは、会長と学長が協議のうえ決定する。

(改廃)

第14条 この規程の改廃は、後援会の総会の議を経て会長が行なう。

附則

- 1 この規程は昭和61年7月1日から適用する。
- 2 この規程は昭和63年4月1日から適用する。
- 3 この改正規程は平成16年4月1日から適用する。
- 4 この改正規程は2005年(平成17年)4月1日から適用する。

名古屋芸術大学後援会会則

- 第1条 本会は名古屋芸術大学後援会（以下「本会」という）と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。
- 第2条 本会は名古屋芸術大学の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
 (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
 (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
 (3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。
- 第4条 本会は名古屋芸術大学学生の保護者または、これに代わる者及び役員会が認めた本学卒業生の保護者をもって組織する。
- 第5条 本会に次の役員をおく。
 会長1名、副会長4名、監事1名、会計監査2名、書記2名、会計1名
- 第6条 本会の役員選出は次の方法による。
 (1) 役員は総会において会員の中から選出する。
 (2) 役員の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
- 第7条 本会役員の任期は次のとおりとする。
 (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐、会長事故ある時はその代理をする。
 (2) 監事は会務を監査する。
 (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。
- 第8条 本会の会議は総会、役員会とし、議長はその都度選出する。
- 第9条 定期総会は原則として年1回、5月に会長が招集する。必要と認めた場合臨時総会を開くことができる。
- 第10条 総会は次の事項を審議・決定する。
 (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関すること。
 (2) 会則の改定、会の解散に関すること。
 (3) 役員を選出、その他の役員が必要と認めた事項。
- 第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した者の過半数をもって議決する。
- 第12条 役員会は出席役員で成立し、会長が招集、議事は出席役員の過半数で議決する。役員会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。
- 第13条 本会に顧問をおくことができる。顧問は役員会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。
- 第14条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降年額10,000円とする。
- 第15条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第16条 本会則の運営に必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。
- 附則 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し実施する。
 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。

名古屋芸術大学後援会の弔意に関する内規

- 1 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金1万円を給付する。
- 2 保護者（父・母）が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金5,000円を給付する。
- 3 役員の上親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、弔慰金として5,000円を給付する。
- 4 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
- 5 この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会に事後報告する。

附則1. この内規は、慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。

附則2. この改正内規は、2006年6月1日より施行する。

名古屋芸術大学後援会顧問の委嘱に関する内規

- 1 名古屋芸術大学の顧問は、原則として、役員会の承認に基づき、会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
- 2 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
- 3 この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会の承認を得るものとする。

附則 この内規は2005年（平成17年）4月1日から適用する。

絵画グループ 「壁の華」 会員募集

私の入会のきっかけは、私の子供と同じキャンパスで学べるという好奇心を持ったことが始まりでした。仕事以外で絵画を通して人と人との交流を持ちたいと思いましたが、不安感があって一年ほど考えた末に子供が卒業するまでにはと、「一歩踏み出す価値が必ずある」と当大学の後援会の役員の方に電話したことが今日に至ることになりました。当大学の先生方のご指導も親切丁寧でありがたく感謝しております。又、仲間の人達の刺激も受けたりして、絵画を通して一歩ずつ自身にチャレンジしていくことの楽しさを覚え、まずは市民展から県美術展、県外などは一般全国公募の日春展、日展へと努力しています。そして学んだことを地域での活動や生活の中にも取り入れられるようになり、ほんとに感謝し満足しております。出合いはすばらしいことです。是非一度見学に来て下さい。未経験の方も大歓迎です。

活動状況

1. 例会
日時：毎月第3日曜日 午後2時～4時
場所：西キャンパス
(体育館会議室／彫刻棟教室他)
2. グループ展
日時：毎年5月初め(1週間)
場所：名古屋市民ギャラリー
3. スケッチ会 10月予定
4. 懇談会

(中田世津子)

入会希望者その他『壁の華』に関する連絡先

- 会長 アイカワ 淡川 敏郎
〒462-0802
名古屋市北区上飯田北町1-47
電話 052-914-9565 090-8952-0261
- 運営委員長 森部 みや子
稲沢市下津町西下町58
電話 0587-32-2814

「せせらぎ合唱団」団員募集

気の合った仲間と一緒に合唱し気分爽快、
そのうえ健康増進にも役立つ！
あなたも仲間に加わりませんか。

活動概要

- 練習日 毎月第3日曜日
- 時間 12時～1時30分
- 場所 西キャンパス体育館
／会議室
- 指導 江端智哉 先生
山田正丈 先生

問い合わせ先

- 会長 吉原征生
〒491-0058
一宮市今伊勢町馬寄字舟入1の1
コープ野村C608
電話 0586-71-5430
- 副会長 名知博毅
春日井市押沢台3-3-13
電話 0568-92-6843 090-2267-3255

「せせらぎ合唱団」は、10数年前に後援会の会員有志により設立され、現在の会員数は男女合わせて約20名です。毎月第三日曜日の昼間に各地の仲間が体育館横の会議室に集まり、名古屋芸大の音楽専門の先生の親切丁寧なご指導により、発声練習から混声合唱練習まで、家庭的な雰囲気の中で練習を行なっています。

お腹の底から声を出すことにより爽快な気分になり、健康増進と若返りにも役立つと言われております。また、気の合った仲間と楽しく過ごすひとは、日頃のストレス発散にもなります。

「せせらぎ合唱団」は、名古屋芸大の後援会会員はもちろん、子供の卒業により後援会会員ではなくなったOBの方でも加入することができます。楽譜が読めなくても、音痴でもかまいません。

是非いちど、見学かたがたお越しください。お待ちしております。

(名知博毅)

■「木祖セミナーハウス」をご利用ください

所在地：〒399-6203 長野県木曾郡木祖村大字小木曾4793

電話：0264-36-2570

アクセス：①マイカー利用—中央自動車道中津川インターより国道19号で90分走行、藪原より村道15分

②公共交通機関利用—JR中央西線藪原駅下車

バス利用25分「五月日（ごがつひ）」下車徒歩10分、

またはタクシー利用10分（要予約TEL. 0264-36-2403やぶはらタクシー）

利用できる期間：通年（ただし、12月30日～1月2日は休業）

利用できる方：①名古屋芸術大学ほか学校法人名古屋自由学院傘下の学校の学生・園児

②学校法人名古屋自由学院の教職員・その家族

③①の学校の卒業生・その家族

④その他特に使用が認められた方

（①の学生・園児の家族など）

（③④の方は、①②の方の紹介が必要です。）

利用料（食事代は含まない）：

学生	1,000円
園児	500円
教職員	1,500円
その他	2,000円

（同伴の3歳以上小学生以下は1,000円、2歳以下は無料）



食事：利用申し込みの際に予約してください。（料金は夕食1,500円、朝食500円）

利用申し込み手続き：下記申し込み先へ、電話で仮予約をしてください。その後の手続きは、そのときにご説明します。

付近の観光スポット：「こだまの森」（テニスコート・プール・パターゴルフ・ピクニックガーデン・多目的運動場・バーベキューハウス・巨大迷路・溪流釣りなど）、やぶはら高原スキー場、木曾福島、上松、寝覚の床、野麦峠、上高地、白骨温泉、乗鞍高原など

問い合わせ先・申し込み先：学校法人名古屋自由学院法人事務局総務部総務課（TEL. 0568-24-0311）

編集後記

平成19年を迎え、新しい学部設立とともにさわやかな風が吹き、大学全体の彩りもよりいっそう艶やかになったように思われます。今までの伝統と若い息吹、それぞれを大切にしながら、来る時代へと向かって行こうとしています。私たち後援会も、会報誌の表紙を一新し、次の世代へのステップを一歩ずつ歩み出しています。今まで以上に力を込めて手を取り合って、大学の発展を願いながら進んでいきたいと心新たにしている次第です。どうぞこれからも、よろしくお願い致します。

広報委員長 柘植久美子

◆発行 名古屋芸術大学後援会

〒481-8535

愛知県北名古屋市徳重西沼65番地

TEL 0568-24-0325 FAX 0568-24-0326

◆編集 名古屋芸術大学後援会 広報委員会

◆表紙デザイン

本学デザイン学科学生 武藤 理恵子

◆封筒デザイン

本学デザイン学科卒業生 福見 光洋

◆発行日 2007年（平成19年）3月26日

